

開講科目名 / Course	教育相談	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	中島 暢美	
担当教員名 / Instructor	河野 伸子、飯田 法子、中島 暢美	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	教育相談の意義や役割について理解し、不適応とは何か、適応障害とは何かを理解する。また、自身が体験したことなどを課題とし、どのような対応が必要か、どのような組織との連携が必要かなどを、グループで話し合う。	
到達目標	1. 学校における教育相談の意義と理論を説明できる。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を同定できる。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を述べることができる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 教育相談とはなにか 02. 教育相談の意義と役割 03. 教育相談の組織と方法 04. 適応と不適応 05. 不適応の分類と理解 06. 適応障害の理解（非行） 07. 適応障害の理解（不登校） 08. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性 09. カウンセリングマインドの理解 10. カウンセリング演習（うなずき、明確化） 11. カウンセリング演習（質問） 12. カウンセリング総合演習 13. アセスメント技法 14. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携 15. 医療・福祉・心理などの専門機関との連携 16. 教育相談における教職員の連携 17. 事例（虐待） 18. 事例（いじめ） 19. 事例（発達障害） 20. 事例（保護者支援）	
その他の授業の工夫	事例を提示し、それに基づいて話し合う機会を提供する。	
時間外学修	次回の講義内容を確認し、教科書などを用いて事前学習を行うこと。また、講義後は復習、次回講義に関する課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	最終レポート（50%）、および、授業内でのグループディスカッションの内容や態度（50%）で評価する。	
テキスト	対人援助職のためのリスニング（ナカニシヤ出版） ディブリーフィング・ワークの研究（関西学院大学出版会）	
参考書	教育相談ワークブック（北樹出版） 教育臨床の実際（ナカニシヤ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	飯田法子：臨床心理士、特別支援教育士として児童相談所、教育委員会（スクールカウンセラー・適応指導教室）、市町村の乳幼児精密健診事業、児童発達支援事業所、乳児院などへの実務の経験 河野伸子：公認心理士、臨床心理士、スクールカウンセラー
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容

教育現場で課題となる児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を通して学べるようアクティブラーニングを取り入れた講義を行う。